

ひまわり部

【目指す子どもの姿】

気づきから広がる世界。学びの積み重ねからその子らしさを表現し、自分なりの方法で思いを伝えようとする子ども。

(1) ひまわり部教育目標

児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じた学習を通して、心身の健康の保持増進を図るとともに、身の回りの人や物事への気づきを広げる。また学びを積み重ねながら、自分なりの方法で思いを表現し、人とかかわりの中で自分らしく生活する力を育てる。

【育てたい3つの力】

- ①気づきの力 ②表現の力 ③つながりの力

(2) 基本方針

①生理的基盤を整える

生活リズム、健康状態や覚醒、呼吸、姿勢などの生理的基盤を大切にし、安心して学習に取り組める環境の土台を保证する。

②個の実態に応じた学習形態

児童生徒の障害または病状の実態や教育的ニーズに応じて、授業形態や学習内容を柔軟に設定する。

③気づきを広げる学びを大切にする

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚等様々な感覚に働きかける学習活動を通して、外界への興味を高める。

④その子なりの表現を支える

発声、表情、体の動き等での表出を大切に扱い、また微細な動きでの表出も見逃さない視点をもつ。

自分から触れたい、動かしたいという気持ちを大切に、身体各部位の操作性を高める学習に取り組む。

⑤人とかかわりを広げる

教師とのやりとりを通して安心できる関係を築き、仲間と一緒に活動に取り組み、人とかかわる楽しさを感じられるようにする。

(3) 学習のねらいと内容及び支援

①学校での学習（スクーリングを含む）

学習名 (教科・領域) 【学習集団の単位】	ねらい	主な内容	支援
すこやかタイム (各教科) (自立活動) 【個別】	安心できる環境の中で体を動かしたりリラックスしたりしながら、心身の調子を整え、心地よさを感じる。	心身の学習 ・ふれあいリラックス体操 ・ストレッチ ・座位 ・腹臥位 ・立位 ・歩行器（ウォーカー） 水分摂取学習 ・経口摂取 ・経管摂取	・体調や覚醒状態を丁寧に把握し、活動量を調整する。 ・姿勢保持のためにクッション等を活用し、安定した姿勢を確保する。 ・ゆったりした声かけ、一定のリズムなど心地よさが感じられるかかわりを意識する。 ・訓練参観研修等の機会を活用して骨の強さや関節の可動域等の児童生徒の身体特性を丁寧に把握し、安全かつ快く学習を進められるようにする。
朝の会 帰りの会 (日常生活の指導) (特別活動)	学校が始まることを知り、生活への見通しと期待感をもつ。 一日を振り返り、楽しか	・あいさつ（歌） ・名前呼び ・予定の確認 ・季節の歌	・音、絵カード等で聴覚的、視覚的に見通しが持てるように伝える。 ・名前呼び等の呼びかけに対する応答を待つ時間を確保し、小さな反

(自立活動) 【学級】	ったこと、がんばったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り（発表） ・あいさつ（歌） 	応を受け止める。
みんなの学習 (各教科) (生活単元学習) (自立活動) 【部】	集団で一定期間継続的に活動に取り組み、一緒に活動する楽しさを感じながら、主体的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、時季をとらえた内容（春の学習、ひまわり運動単元、水遊びの学習、松養祭ひまわり広場、音楽発表会単元、卒業・進級に向けて） ・その時期の興味関心から決め出す内容（遊びを核にした活動、制作的活動、感覚遊び等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・五感に働きかけた内容を取り入れる。 ・人とかかわる活動を取り入れる。 ・授業の流れをシンプルにし、また繰り返しを大切にする。 ・学習活動に応じて適した姿勢及び体位を工夫する。
日常生活の指導 (日常生活の指導) (自立活動) 【個別】	身の回りのことに主体的に関わろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校（あいさつ） ・身支度（衣服・靴の着脱、片付け等） ・保健衛生的内容（排泄・歯磨き、手拭き等） ・当番・係の活動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活場面をコミュニケーションの機会としてとらえる。 ・姿勢や体の使い方に配慮し、安全に行えるように支援する。 ・できる部分は自分でかかわれるようにし、過度な介助を避ける。
給食 (日常生活の指導) (自立活動) 【個別・学級】	児童生徒の摂食の力に応じて、食物の取り込み・咀嚼・嚥下等の力を高める（維持する）。 経管による栄養摂取を行う児童生徒は、リラックスして食事をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 ・胃残の確認（胃ろう） ・姿勢保持 ・食事 ・注入 ・歯磨き、口腔ケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調に応じて適切な姿勢を整える。 ・リラックスして食事をとる雰囲気作りを意識し、コミュニケーションを大切にしていく。 ・看護師と連携して、安全に医療的ケアが行われるように配慮する。 ・感染症対策を行う。
遊びの指導 (遊びの指導) (自立活動) 【個別・小集団】	遊びを通して感覚や体の動きを広げ、興味関心を高めながら、人や物とのかかわりを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び・歌遊び ・読み聞かせ ・ゲーム的活動 ・散歩（校舎内外）等 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの動きや表出に合わせて遊びを展開する。 ・楽しいという感覚を共有するかかわりを大切にする。 ・児童生徒の実態に応じて主体的に体を動かして活動できるよう周囲の安全に配慮する。
個別学習 (各教科) (自立活動) 【個別】	個々の実態に応じた課題に継続的に取り組み、気づきや表現の力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた自立活動中心の課題 ・興味関心に寄せた学習 ・季節の学習に寄せた学習 ・教科学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習が行えるよう、過敏さに配慮し、光・音・姿勢等の環境を調整する。 ・健康状態や覚醒に応じて学習内容や時間を調整する。 ・個の実態に応じてシンプルな課題に繰り返し取り組み、達成感が得られるようにする。 ・個に応じたコミュニケーション手段（視線入力、スイッチ等）を活用する。 ・実態に応じて、ねらいが似ている

			児童生徒をグループ化してチーム学習を取り入れる。
わくわくタイム (各教科) (自立活動) 【学級・小集団】	図工的、音楽的、体育的活動、読み聞かせ、感触遊び、といった様々な活動を通して季節を感じたり、感覚・感触を楽しんだりする。興味関心・実態に応じて、様々な活動を経験し、興味の幅が広がる。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事 ・感覚遊び・粗大運動 ・制作活動 ・散歩、外気浴 ・歌、楽器遊び、手遊び ・読み聞かせ ・足湯、アロマセラピー ・スノーズレン ・行事に向けての活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・五感で季節を感じられるように工夫する。 ・児童生徒の姿から活動内容、教材等を決め出す。 ・支援体制を考慮し、子どもに合わせてゆったり活動できる内容となるように計画する。
ひまわり音楽 (各教科) (自立活動) 【学級】	歌う、踊る、楽器を鳴らす、ムーブメント、等の活動を通して音楽に親しんだり、季節感を味わったりする。 みんなで手遊びやダンスなどをしながら集団の中で音楽活動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスや手遊び、歌などを通して身体を使った表現を行う。 ・ムーブメント・リトミック ・鑑賞やパネルシアター等を通して、いろいろな曲やリズムに親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節をテーマに、様々な感覚（見る・聞く・香る・感触）や体全体で音や音楽を感じられる活動内容を行う。 ・ひまわり音楽学習計画案を基に、子どもの実態に応じて、様々な音楽的要素を取り入れる。 ・大きな音、高い音が苦手な子どもへ配慮する。
作業学習 (作業学習) (自立活動) 【高等部生】	様々な作業を継続して取り組むことを通して、働く力(将来の社会参加につながる態度・知識・技能)を身につける。 販売会や高等部作業班とのやりとり等で社会と触れ合う経験を積み重ね、対人意識や社会性を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部のエコロジー・園芸・手芸・粘土・農耕・木工の各班からひまわり部の実態に応じて選択し、製品の製作や販売、まとめの会等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習カードを用い、個の「ねがい」を大切にする。 ・本人が力を発揮できる作業工程に繰り返し取り組み、達成感を感じられるようにする。 ・高等部作業班と連携しながら進める。
性教育 (各教科) (特別活動) (自立活動) 【個別・学級】	健康な生活を送るために清潔に気をつける。 自分の体の成長について知る。 男女に違いがあることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの清潔（手洗い・手拭き、歯磨き、口腔ケア等） ・排泄の指導（支援者と一緒に） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分の体と心に気持ちを向けて、暑さ、寒さ、快不快等を感じることを大事に扱う。 ・手洗いや手拭き、歯磨き等、繰り返し取り組む。 ・カーテンやパーテーション等で男女の着替えやおむつ替えをする際の場所を区切る。 ・基本は小4年以上の児童生徒は同性介助（おむつ替え）とする。
道徳 (道徳) 【個人・学級】	学級や学年集団で生活する中で、友だちや職員とよりよいかかわりが持てる。 他を意識したり、人のために心を寄せたりする	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活におけるマナーやルールを実生活の中で学習していく。 ・周囲の人との望ましいかかわりについて実際の場面で繰り返し学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な望ましい行動の仕方や人とのかかわり方（しぐさ、ことば）など見本を示し、一緒にやるようにする。 ・声かけやカードの提示など、子どもに応じた方法で、徐々に一人で

	活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・公共のマナーを日常の学校生活の中でも意識的に仕組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もできるように支援していく。 ・人の温かさや感謝の気持ちについていねいに伝え、相手意識を持って制作活動に取り組んだり、行事等に参加したりできるようにする。
交流及び共同学習 (特別活動) (自立活動) 【学級・部・他部所属学年】	他部所属学年や学級の仲間としてともに活動し、自然なかかわりがもてる。 副学籍校や地域の方とかかわりをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の所属学年、学級との交流 ・他部の行事、生徒会活動への参加 ・副学籍校や地域の方、大学生との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じて所属学年・学級の友だちを意識できるような場を設けたり、日常的に交流できるよう配慮する。 ・副学籍校との交流については、保護者の意向を踏まえ、交流活動を計画する。相手校と合理的配慮を確認し、適切な交流内容や回数について打ち合わせを行う。
進路学習 (小：特別活動) (中高：職業・家庭) 【個別・学級】	小：集団の中で、自分の役割(係や当番)の仕事を意識し、やり遂げようとする。 中：生徒が将来に向けて自分なりの願いをもち、その実現に向けて努力する意欲をもったり、態度を身につけたりすることができる。 高：自己選択・自己決定しながら主体的に卒業後の就労生活をしていくための態度・知識・技能を身につける。	小：学級、学年等の係の仕事や健康の維持、挨拶や返事、人とかかわり、身だしなみ等。 中：卒業後の進路についての学習をしたり、作業や生活の様子を見学や体験したりする。 高：職場見学、校内実習、現場実習、進路相談および事前・事後学習などを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中：将来に向けてどのような力を育てればよいか、将来を見据えたつながりをキャリア教育の視点に立って考えていく。職場見学では、保護者にも参加を呼びかけていく。 ・高：体験と結びつけて卒業後の生活を見通す場を設定する。関係諸機関との連携を図り学習の場を設定する。
部行事 各学年行事 (特別活動) (自立活動) 【学級・部・他部所属学年】	校外に出かけて公共の場での活動や季節ごとの体験、集団での行動、寝食を共にする体験などから、自然に親しんだり、社会生活や集団行動のルール、公共マナー等を感じたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行(小6・中3・高3) ・中高社会見学(中高等部) ・小親子遠足(小学部) ・他部所属学年の校外学習 ・入学進級を祝う会 ・卒業を祝う会 ・音楽発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が楽しめる活動や活躍できる場面を用意し、もてる力を出せるような行事の内容や運営を考える。 ・見通しを持って当日を迎えられるように、事前の学習を丁寧に行う。 ・家庭ではなかなか経験できないことを体験できる貴重な機会として、活動内容を計画する。

②訪問授業 基本とする学習時間 午前10:00~12:00 午後13:30~15:30 週3回程度

学習名 (教科・領域) 【個別学習】	ねらい	主な内容	支 援
始めの会 (日常生活の指導) (特別活動) (自立活動) 【個別】	始めの挨拶や歌を歌うことで、授業の始まりを知り見通しを持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・名前呼び ・歌 ・活動の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすい姿勢や体位をとる。 ・呼名や挨拶をした後の様子を大切に受け止め、積極的に意味づけていく。
すこやかタイム (各教科) (自立活動) 【個別】	安心できる環境の中で体を動かしたりリラックスしたりしながら、心身の調子を整え、心地よさを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体遊び ・ふれあいリラックス体操 ・体位交換・ストレッチ ・体の曲げ伸ばし 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や覚醒状態を丁寧に把握し、活動量を調整する。 ・姿勢保持のためにクッション等を活用し、安定した姿勢を確保する。 ・ゆったりした声かけ、一定のリズムなど心地よさを感じられるかかわりを意識する。 ・訓練参観研修等の機会を活用して骨の強さや関節の可動域等の児童生徒の身体特性を丁寧に把握し、安全かつ快く学習を進められるようにする。
季節・行事にかかわる学習 (自立活動) (各教科) 【個別・部】	感覚を使った活動を通して、快・不快や自分なりの気持ちを動きや表情や声・身体の動き等で表すことができる。 自分のめあてや願いを意識しながら主体的に活動に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事にかかわる学習 ・本の読み聞かせ ・植物や食べ物など、季節に合わせた感触遊び ・光遊び・揺れ遊び ・調理活動 ・制作活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・五感に働きかけた内容を取り入れる。 ・人とかわる活動を取り入れる。 ・授業の流れをシンプルにし、また繰り返しを大切にする。 ・学習活動に応じて適した姿勢及び体位を工夫する。 ・スクーリングが可能な児生には、「みんなの学習」とほぼ同じ内容・流れの学習を訪問授業で行い、見通しをもって参加できるようにする。
わたしの学習 (自立活動) (各教科) (作業学習) (職業・家庭) 【個別】	好きな活動を見つけ広げたり深めたりする。 個々の実態に応じた課題に継続的に取り組み、気づきや表現の力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚認知にかかわる学習 ・光、音、揺れなどの遊び・作品制作・散歩・読み聞かせ・各教科 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習が行えるよう、過敏さに配慮し、光・音・姿勢等の環境を調整する。 ・健康状態や覚醒に応じて学習内容や時間を調整する。 ・個の実態に応じてシンプルな課題に繰り返し取り組み、達成感が得られるようにする。 ・個に応じたコミュニケーション手段(視線入力、スイッチ等)を活用する。
終わりの会 (日常生活の指導) (特別活動) (自立活動) 【個別】	・学習したことを振り返り、授業の終わりを知ったり次の授業への期待を持ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返り ・次回の予定 ・帰りの歌や挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で使った具体物を提示しながら、楽しかったこと、がんばったことを振り返る。

※スクーリングの際は、通学組の学校での学習に準ずる。

(4) その他

①参観日・部行事

＜参観日＞ひまわり部の参観日は各学期に1回ずつ行う。

1学期 午前中：授業参観、午後：進路学習会（保護者会共催）

2学期 音楽発表会（学習の成果を音楽・劇・身体表現または複合的なものを発表し、自己表現する場とする。また、発表を見合うことを通して、お互いの良さや頑張りを認め合い、楽しむ場とする。）

3学期 卒業を祝う会（卒業生を皆でお祝いする機会とする。）

＜入学進級を祝う会＞（入学進級を皆でお祝いする機会とする。）

＜親子遠足・社会見学＞校外に出かけ、学校とは違う雰囲気を感じ、学校では味わえない体験をすることで、生活の幅が広がったり、進路を見据えた生活ができたりするようにする。

②修学旅行

・ひまわり部の修学旅行に参加することを原則とする。

・児童生徒の実態（教育課題や身体状況）に合わせて、他部（該当学部）の旅行へ参加することも可能であるが宿泊はしない。参加の場合は事前から家庭や該当学部と情報交換を重ね、計画的に参加方法を検討する。

・小6、中3、高3で実施する。児童生徒の実態に合わせて連学年または個別に実施する。

③他部との交流活動について

・交流活動は、各部や学年の児童・生徒や職員とのかかわりを大事に考え参加する。

・参加の仕方については、個々のねらいを明確にし、それぞれの実態に応じて検討する。

・交流学年の校外学習に参加の場合は、日程や内容などゆとりがもてるように計画する。年1回の実施とする。

・ひまわり部独自の行事もあることから、児童・生徒にとって、負担が大きくならないように配慮する。

④副学籍交流

・個々のニーズにより居住地校との交流を行う。児童生徒の実態に応じた内容や日程を計画する。

⑤その他

・高等部入学選考、小中一日入学については、全校体制の中で考えてもらえるようにする。部内係を設け、全校係と連携を取りながら推進日程や実施確認を進める。

・緊急時に、迅速に対応できるように、医療的ケア委員会で計画する救急想定訓練を行う。

・「訪問教育の就学のめやす」「通学組の指標」に沿った就学相談を行っていく。通学籍や訪問籍の移行については、校内教育支援委員会にはかる。

・給食支援や排泄支援は、担当教頭先生及び教務室の先生方にも入っていただくようにし、ひまわり部職員が出張年休等で不在の際も支援体制が整うように協力をお願いしていく。